

シート番号	7102-06	名 称	再建記念碑
分 類	記念碑	場 所	人見 人見神社
小 分 類	社寺関係碑	メッシュ番号	1715
年 号	和暦：昭和 47 年 6 月吉日 西暦：1972 年		
形 状	厚板型		
サ イ ズ	中央高：180 c m 横：86 c m 奥行：32 c m		
画像番号	7102-06-01		

再建記念碑



コメント；碑文は次ページ参照。

サイズ 左右脇 高：96 c m 横：61 c m 奥行：32 c m 全体の横幅 207 c m
左右脇には再建奉賛会役員芳名が記載されています。

再建記念碑

昭和四拾五年四月九日未明不浪者の火の不始末により由緒ある當神社の御社殿並に付属建物悉皆烏有に着せり。然れども恐懼す猛火の中唯一御神体のみその尊姿全備す。神威無窮の極なり。神社並に獅山会両当局者は急據旧十七ヶ村の會議を招集し直ちに奉賛会並に再建実行委員会の組織なり耐火耐震建築による再建の議定まる。即ち資金に就いては往時の君津町より社有山林都市環境保全林造成計画実施要請による協力代償金三千五百万円を基金とし報本反始の誠に徹する氏子崇敬者並に新日本製鐵株を頂点とする進出企業群の淨財の寄進に求む。尔来兩組織は同心戮力大いに尽瘁し同年六月仮社殿の造営を完了し御靈代を遷御す。其の間周到なる計画の基不動建設株と特契を結び道路の竣工を待ち昭和四十六年一月愈々御社殿再建に着工す。同年八月本殿落成直ちに仮本殿より莊重なる遷座祭を斉行併せて未完の御社殿残余工事を続行す。一方同年八月仮社殿跡に社務所並に境内末社の工を起し社頭大鳥居の改修にも着工す。同年十二月建造物一切の完工を告ぐ。社殿内裝飾境内地整備又辨備す。此處に於て神域の尊嚴旧觀に倍す淳に虔幸の至りと云うへし。費す所の歳月一年有半工費実に五千萬圓也。御神徳の廣大にして無事完成せるを欽仰し併せて関係各位の労苦を永久に残すべく此の記念碑を建立する所以なり。

昭和四十七年六月吉日

宮司 宮崎正男撰文

渡部 恭守 書

石工白井秀光刻